

イカルチドリ *Charadrius placidus* Gray et Gray

【選定理由】

主に河川の中下流域にある河川敷の砂礫地に生息して繁殖するが、近年繁殖期の個体数は減少傾向にある。県内の河川はダムや堰により土砂の供給が大きく減少している上に、河川敷の公園化や堤防道路の整備、河川敷の樹林化等により、河川の中下流域から環境の良い砂礫地が減少している。

【形態】

全長 19～21cm、翼開長 45cm。頭頂と上面、雨覆は灰褐色で、下面は白く胸に黒帯がある。眼先から頬にかけては黒褐色で、眼の回りは細くて黄色の縁取りがある。嘴は、小型のチドリ類としては細くて長めで、脚は淡黄色。飛翔時は、内側の初列風切基部から次列風切にかけて細い白帯が出る。静止時は、尾羽が初列風切の先端から突出する。冬羽や幼羽は、眼先から頬にかけての黒褐色が淡く、頭頂とのコントラストが不明瞭。



愛知県岡崎市, 2005年6月18日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

河川中下流域の砂礫地に生息し繁殖する。非繁殖期は河川下流域や沿岸部、平野部の水路、水の少ない池沼などでも見られる。

【国内の分布】

全国的に記録があるが、繁殖は本州と四国に限られている。

【世界の分布】

ウスリー地方、中国東部および北部、朝鮮半島で繁殖し、中国南部からインド北部で越冬する。2亜種に分けられる。

【生息地の環境／生態的特性】

愛知県では、繁殖期は主に河川中下流域の河原や中洲、および丘陵地の池畔などの砂礫地に生息する。砂礫地やまばらに草の生えた地上に浅いくぼみを作り、小石や枯草などを敷いて営巣する。非繁殖期は、河川中下流域、沿岸部や平野部の水路、丘陵地の調整池畔、水の抜かれた池沼などに、単独または小群で生息する。餌は主に動物質で昆虫類を多く捕食し、ピュイ、ピュイと鳴く。

【現在の生息状況／減少の要因】

非繁殖期を含め場所によっては減少傾向がみられない箇所はあるものの、県内全体では近年繁殖期の確認地域や確認数が減少している。また繁殖期の分布をみると、河川のより上流部や丘陵地の池などで繁殖する個体が激減し、河川のより下流部での記録が目立つようになっている。非繁殖期の記録にも同様の傾向が見られ、愛知県では全体に生息標高が低下していることが伺える。県内の河川ではダムや堰により土砂の供給量が減少しており、河原に生息する種の繁殖に影響を与えていることが考えられる。丘陵地の池については、都市化や開発などの影響が考えられる。

【保全上の留意点】

河川管理では河川敷の砂礫環境保全につとめ、区域を定めて人の干渉を排除するなど、この種を含む生物全体の生息環境を保全するための積極的な河川敷管理が必要である。

【特記事項】

平野部の河川から離れた場所にある、砂利を敷いた広い駐車場で繁殖した例がある。近くには幅数メートル程度の3面張り水路があるのみで、池などが全くない環境であった。

【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.114. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)